

# 250億円を採る決算審査特別委員会

## 若者が意欲をもって活動できるよう支援します

主な事業

(千円以下切り捨て)

- 家族や地域の絆の醸成
  - 若者にぎわいづくり推進事業 ..... 761万円
    - ・自然環境に恵まれた魅力ある滝沢村をPRし、良好な人間関係の下に意欲をもって活動するきっかけ作りを目的として婚活登山を行い、54名の参加がありました。
  - 学連携活性化事業 ..... 136万円
    - ・村内に立地する各大学が持つそれぞれの専門性を生かし、村が直面する課題の解決への取り組み、または潜在的課題の掘り起こしを図るべく、各連携事業を実施しました。
- 若者の雇用機会の創出
  - 企業誘致事業 ..... 819万円
    - ・雇用の場の確保及び地域経済の活性化のため、県外企業及び村外企業への企業訪問の実施、更には、企業とのネットワークの強化及び新規ネットワークの構築のため、各種会合等に参加しました。また村内企業の拡張支援及び新規事業創出支援を行うための情報収集及び企業からの相談に対応しました。
  - 産学官共同研究事業 ..... 1300万円
    - ・村内企業と大学等との連携強化のための補助支援及び村が抱える課題解決のために企業のノウハウを活用した共同研究を行うことにより、村内企業の基盤強化、地域課題の解決、大学との連携強化のきっかけ作りを行いました。
  - キャリア教育サポート事業 ..... 530万円
    - ・NPO等を活用することで、学校現場の負担を軽減するとともに、小中学校で行われているキャリア教育の充実をめざしました。
- 子育てしやすい地域環境の整備
  - 育児支援事業 ..... 851万円
    - ・家庭訪問や相談事業、親同士の交流を通じて育児不安の軽減につとめ、子育てが楽しいと感じられるとともに、子どもが健やかに成長できるよう支援しました。「乳児全戸家庭訪問事業」を継続し、様々な悩みを傾聴、子育てに関する情報提供に努めました。

## 滝沢らしさを創りだす活動を進めます

主な事業

(千円以下切り捨て)

- 滝沢ブランドの創出
  - 物産振興事業 ..... 182万円
    - ・村の物産及び産業等を紹介することにより、村民の理解と認識を高め、生産の奨励及び販路の拡大を図り、村内の産業振興に資することができました。
  - 滝沢ブランド推進事業 ..... 547万円
    - ・平成21年度より滝沢村観光協会職員を1名雇用して滝沢村のブランド価値を高めることを目的に実施しました。
  - 滝沢ブランド販売促進事業 ..... 110万円
    - ・滝沢村の農産物や特産品、観光資源等をPRする物産展を県内外で開催し、滝沢ブランドのイメージアップを図りました。
  - チャグチャグ馬コ馬資源確保事業 ..... 277万円
    - ・村内の農用馬飼育頭数の減少傾向に歯止めをかけ、チャグチャグ馬コの里滝沢村を維持していく為に「校伯」を飼養し、「伯鈴」「滝姫」を出産し増頭を行いました。また、村イベントにチャグチャグ馬コとして参加しPRを行いました。
- 絆で繋がる地域コミュニティ
  - 滝沢地域デザイン推進補助事業 ..... 160万円
    - ・21世紀前半の地域整備計画である滝沢地域デザインの推進のため、各地域まちづくり推進委員会の事業を支援するとともに、地域住民の事業企画力・実践力・課題解決力の向上を図りました。
  - 交流拠点複合施設整備事業 ..... 1493万円
    - ・滝沢村交流拠点複合施設を建設し、ブランド発信、生涯学習推進、保健福祉の向上、地域活動支援へ寄与するため、基本計画書の策定を行い、基本設計及び実施設計の手法を検討しました。
  - 地域活動支援事業 ..... 203万円
    - ・滝沢村地域活動推進員配置することにより、自治会やまちづくり推進委員会の支援が図られました。また、本村には存在しない地域づくり団体等を支援する組織の研究を行いました。
- 信頼される行政活動
  - 重点政策啓発推進事業 ..... 937万円
    - ・総合計画における重点政策である「滝沢らしさの確立」、「若者定住」、「食育」を推進するため、村内外へのPR活動を実施しました。
  - 総合計画マネジメント事業 ..... 54万円
    - ・第5次総合計画の基本構想・後期基本計画・実行計画の日常的な進捗管理、定期的な地域社会調査、評価制度の検討などのマネジメント事業を展開し、将来像達成へ向けた全庁の取り組みの支援を行いました。

23年度一般会計決算

反対討論

武田 猛見 議員

歳入においては、村税や地方交付税、繰越金、諸収入などの増額で、10億円ほどの増額決算となり、また、22年度決算からみても2億円ほどの増額で、地方交付税の増額、村税などの収納率の向上で一定の健全財政が確保されたことに対しては、当局の努力が報われたものと感じています。

歳出においては、滝沢ニュータウン及び一本木の学童保育クラブの整備や、交通安全施設として称宜屋敷線の歩道整備は、緊急を要する事業であり評価します。また乳幼児等の医療費助成では、村単独で初めて、窓口負担の半額化が実現しました。しかし全体としては住民の願いにかなった事業展開が出来たとは言えない状況にあります。

村の財政力指数は、県内ではかなり高い位置にあります。経常収支比率では、83.9%ですが、異常に高くはありません。また、経

常一般財源比率で見ると、93.2%と昨年を1.7ポイント上回っています。

実質公債比率では、公債費は10%を超えないことが望ましいとされていますが、23年度は9%まで下がっており、本村の財政構造は、安定的な状況にあります。

このように、財政の有効な事業への転化が行えるにも関わらず、不十分なままで終わった事に異を唱えるものであり、認定に反対します。

賛成討論

佐藤 美喜子 議員

村は26年1月の市制移行を決定し、村民の機運の醸成を図るとともに、住民自治の確立に向けた取り組みや東日本大震災で被災された市町村への復旧復興支援にも全力で取り組みました。また雫石・滝沢環境組合が設立され雫石町との連携による効果的な本格運営も始まりました。

本村においては、23年度一般会計決算額は、前年と比較し4億2262万164